全員協議会 会議録（要点筆記）

平成28年5月6日（金）

午後 1時30分 開会

午後 3時00分 閉会

場所： 全員協議会室

〔上程議案の補足説明〕

- 1 専決処分の報告について（施設の管理瑕疵に起因する事故の和解及び損害賠償の額の決定）

小坂和正教育部長：資料に基づき説明

質疑なし

- 2 半田市土地開発公社の経営状況について

滝本均総務部長：資料に基づき説明

質疑なし

- 3 半田市立幼稚園保育料条例等の一部改正について

小坂和正教育部長：資料に基づき説明

質疑なし

〔報告案件〕

- 1 半田市プレミアム付商品券発行事業の実施報告について

笠井厚伸市民経済部長：資料に基づき説明

質疑なし

- 2 半田市都市計画マスタープランの中間見直しについて

榊原康仁建設部長：資料に基づき説明

中川健一議員：超高齢社会への対応ということで議会側からは公共交通をきちんとやるべきではないかという提案をしているわけですが、都市計画マスタープランの中で超高齢社会の対応で具体的に打ち出しているものは何かありましたでしょうか。

榊原康仁建設部長：マスタープランの内容は、今そこまでわからないのですが、公共交通機関につきましては、地域公共交通会議を立ち上げて庁内で今検討しています。

中川健一議員：もう少しわかりやすく言いますと公共交通はやるべきだという提案が議会側からも出されているわけですが、当然公共交通だけで超高齢社会に対応できるわけではなくて、例えばコンパクトシティのように公共交通網の近くに住宅を構想化して建てるべきではないかとかですね。例えば今商業地域がかなり疲弊しているわけですね。半田駅前が象徴的なことだと思いますが、そのようなものに対する対応策というのが、今回の中間見直しで具体的になされているのかなされていないのかが知りたいです。

榊原康仁建設部長：コンパクトシティの観点などそういうことにつきましては、都市計画マスタープランよりも用途地域よりももう少し詳しい拠点地域、都市機能を集中する区域や住居区域などを誘導するような適正化計画を今から取り組んでいくとしていますので、よろしく願いいたします。

3 半田市立半田病院あり方検討委員会答申について

榊原純夫市長：本答申につきましては、耐震の問題、あるいは施設の老朽化、面積の狭隘化などによりまして新しい病院の建設が喫緊の課題となっております半田市立半田病院の今後につきまして、昨年設置をされました半田病院の新病院建設構想に具体化に向けての検討委員会、これは名古屋大学病院、石黒先生を座長とするものでございますが、その機関に今後のあり方についてご協議いただきご示唆賜りたいという申出をさせていただきました。昨年の7月から協議を重ねていただき、今回、本年の4月26日に新病院構想として答申という形で私どもに答申がされました。細かい内容につきましては、半田病院事務局長から報告をさせますのでよろしくお願いを申し上げます。

三浦幹広半田病院事務局長：資料に基づき説明

石川英之議員：およそ10日前に市長へ答申があったということでお聞きしましたが、これを踏まえて市長、当局はいつまでに半田市としての考え方を打ち出されてくるのか、まずスケジュールをお聞かせください。

榊原純夫市長：できるだけ早くすることが大事だと思いますので、議会の皆さんからのご意見も承りたいと思いますが、基本的には多角的な検討をさせていただいておりますので、私も確か議会の一般質問か代表質問か忘れましたが、最初は3.11を踏まえまして知多半島道路の周辺にということをご答弁させていただきましたが、やはり多角的に考えますといろんな時間軸ですとか資金のことを考えますと、今の職員駐車場に新しい病院を建設するのがモアベターな結論であると思っておりますので、私はそれを尊重させていただきたいと思っておりますし、ぜひ議員の皆さま方にもご理解をいただいて一日も早く新しく病院ができるべく進めてまいりたいというふうに考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。半田市としてできれば遅くとも今年中くらいには一定の方向、遅くとも今年度中には今の職員駐車場に建設するというご了解をいただいて次に進めていきたいというふうに考えております。以上です。

石川英之議員：そうすると半田市としては、まだ結論がでていないけれども市長個人の考えとしてはこのあり方検討委員会自体を尊重するという形で、個人的にはそう思っているということでしょうか。

榊原純夫市長：ご指摘のとおりです。

久世孝宏議員：あり方検討委員会の実施時期はこれで適切であったかどうかということをごどのように思われているか。これだけ老朽化がどうかスピードが大事だということにウェイトが占められてしまった候補地選定であることに對して、去年始めてこの時期にやっという結果がでたことはもちろん検討委員会の答えは尊重しますが、病院もですし庁舎もそうですが時間がないからここだというふうに結局なっているととれる訳です。これがもしも5年前から検討していれば違う観点、違う答えも出てきたのではないかと僕は思います。実

施時期として去年から始めたということは適当であったかどうか。どのように感じられているでしょうか。

榊原純夫市長：ゴールデンウィークの前の答申が出る前でありましたが、検討委員会のメンバーで半田市医師会の会長であります花井先生自体もこの答申案が出されることを承知で半田市医師会の臨時総会を開いていただきました。臨時総会の席上で半田の石田院長から現在取りまとめられている中間段階での記述の内容を報告させていただいて、その際、半田市の医師会の方からも久世議員と同じ質問がされました。私がお答えしたのは確におっしゃる通りで時期的に差し迫ってから検討していることに関しては申し訳なく思っています。ということと、それからもう一つ3.11の後、新しい庁舎をつくるのがまず最優先であると思っておりましたので、そちらに没頭していたことも大きな理由であります、いずれにしてもそのここまで切羽詰った状況になってしまってから検討した。切羽詰ってしまったという言い方が適切であるかどうかわかりませんが、例えば配管の問題など、恥ずかしながら私は細かいところまで承知しておりません、私の不徳の致すところでございますが、そのことも申し述べた結果、半田市の医師会様でもいずれにしても時間的なこともあるけども場所的なことやそういうこともよく論じられているので、切羽詰った議論についてはいささか承服しかねる部分もあるが、その分、今度つくる病院に特に付帯意見の部分は、半田市の医師会の皆さんの総意が反映されていると思っておりますので、そういう答弁をさせていただきました。ご指摘のとおり時間がなくなってから取り組んだことは反省しなければならないと思いますが、逆にその分、十分に検討させていただいておりますので先ほど申し上げた通り、この答申については尊重させていただきたいと思っております。長くなりましたが以上です。

加藤美幸議員：病院のソフト面の計画について、4月末に常滑市民病院の病院まつりに行かせていただきまして、そこでは、ボランティアの方が多く参加されておりました。新しい病院が持続可能な病院で愛されるためには、市民との関わりとか大切だと思っておりますが、いままであり方検討委員会やアンケートなどをされてきたわけですが、病院ができた後の市民との関わりとかの計画はどのようにお考えでしょうか。

渡辺昭司議長：答申を受けた内容でお答えができる範囲内で結構ですので、お答えをお願いします。

榊原純夫市長：現在でもボランティアの方に病院の案内等をしていただいている部分があります。ご指摘の点については今後のことになろうかと思っておりますが、従前どおり市民目線の市民の皆さんにいろいろ情報提供させていただくとともに市民の意見も取り入れた中でやっていくように努めてまいりたいと思っておりますが、いずれにしてもまずは建物が建つことが先決でございますので、その後ソフト面についても怠りのないように努力をしてまいりたいと考えております。以上です。

新美保博議員：51ページの建設候補地についての結論とあるが、場所はあり方検討委員会はここで作ろうと。その作る時期だとかそういうことはやらなきゃいけない。必要性があるならやらざるを得ないと思っておりますが、例えば「周辺道

路の液状化対策を検討する。」など「〇〇を検討する」というのが3つある。誰がどこでどのような検討をしてどのような答えがいつごろでるのかということ。それを議会としてどう受け止めるか。どこかで結論を出さなくてはいけないにしても、この検討事項の処理をどうするのか。

榊原純夫市長：いずれにしても検討事項は、現職員駐車場を敷地とすることを前提に頂戴しています。例えば道路の基盤整備につきましては、中央ふ頭から北へ進む道路やJR半田駅の前から半田郵便局の前までの駅前線については、かなり厚い舗装がされておりますが、残念ながら郵便局の前から半田病院へ至る道路については若干薄かったりしますので、そういうことをきちんとしなければならぬことが今後の課題であると思っています。迂回路にしても開院までに整備をする必要があると思っていますが、結論については、できればこういったものを市民の皆さまにお出しをして、ご意見を承って、場所はここに決めるということを最終判断させていただきたいと思っております。それについて議会のご質問等をいただいて、議会の皆さま方にご同意を得るような形で進めていきたいと思っております。

中川健一議員：2つあります。1つ目は今の場所について全会一致で決まったということですが、全会一致では気持ち悪いと思っております。これだけの人数の委員がいて一人も異論をはさまなかったというのはどうかと思っております。その実態がわかれば有難いです。もう一つは、半田では全会一致だということですが、他の自治体とか他の病院関係者からこの場所についての異論はこれまでにでているかどうかについて教えてください。

藤本哲史副市長：まず1点目の委員の中では全会一致とご報告しておりますが、その過程の中で異論がなかったのか。というご質問でございます。異論はございました。やはり現職員駐車場のところで災害時の事業継続が可能なのかということが一番大きな論点でございました。医師会や市民代表の委員からもそのような発言がございました。それをどうリスク低減していくかという議論の中でこの51ページの3点、これをクリアすることで現駐車場でも事業継続は可能だろうということでした内容でございます。そのため、先ほども新美議員からもありましたようにこの3点についてはしっかりと実行してリスクを低減していきたいと考えております。それから2点目の半田市民、あるいは医療関係、広域的な医療の視点からどうかというご意見でございますが、現時点で私のところ、あるいは病院のところにはそうした関係者からのご意見はありませんでした。ただ、東海市で防災会議を開いたときにそうした話題があって、この候補にあがった中でなぜここは駄目なのかというご質問があったことは間接的に聞いておりますが、そこは高圧線の鉄塔が走ってしまして緊急時にヘリコプターが着陸できないということからここは無理ですとご回答しましたら、それは了解されました。以上です。

中村宗雄議員：今、副市長の言われた中で事業の継続性とそのリスクの低減ということですが、この市内の防災マップを見ますと最も色濃く塗られた部分、津波や高潮や液状化や震度など最も条件の悪いところに建てようとしている訳ですね。でもそれはBCP（事業の継続性）が担保されればよいという発想の中で、先ほど言われた今年度中に検討すると、この検討というのは、要するに

事業の継続性を担保するということですね。こういうことをすると液状化が止まるとか、こういうことで浸水が止められるとか、要するにハザードマップに塗ってある4つのマップがありますが、そのことがこういう方法によって担保できるから、こっちの方向で進めようということまでやらないと担保したことにならないと思います。これでいいだろうではなくて、こうなるかもしれないという判断をしなくてはいけない中で、本当に年内に今言われたようなことが担保するようなことができるのでしょうか。

藤本哲史副市長：その件については、ただいま市長からもお答えしたとおり、もう少しいろんなご意見を聞いて考えていきたいということでございますが、やはりこのご指摘いただいた3点は非常に重要な事項でございますので、この委員会の中でも私からお答えをしているところですが、市役所前の交差点からさくら小学校の正門前までを液状化対策しようとする粗々の試算で約最大3億円、2億5千万円から3億円という数字を現在いただいております。ただ、これが本当にそこまでいくのかどうかこれから詰めなくてはいけないですが、詰めたうえで3か年実施計画等に登載していくべきだと思っております。それから周辺道路、特に堤防の道路を緊急道路として確保することが一番重要でありまして、これは愛知県知多建設事務所にもその堤防道路をどう開削していくのか、堤防の補強については、現在ご存知のとおり愛知県が実施しておりますがガスホルダーまではあと2年程で完全に堤防の補強がされます。あとは道路をいかに確保していくか、これは県道も兼ねておりますので建設事務所とも協議しなければいけないのですが、これは確実に確保していくべき課題だと思っております。それからバス路線についても現在特別委員会でも議論いただいておりますし、私どもの公共交通会議でも議論をしていくところですが、いずれにしても半田病院が仮にどこにできたとしても最も市民が利用したいという目的地であることは変わりないと思いますので、そこに至る路線の強化、これは病院の問題であると同時に市民の公共交通機関の課題でもあると思っておりますので、そうした視点で路線の確保をしてまいりたいと思っております。

〔その他〕

1 熊本地震に伴う被災地への義援金受け渡しと現状把握について

藤本哲史副市長：4月14日以降に発生しました九州熊本地震に対しましては、半田市といたしまして、翌日の4月15日に早速市民からの義援金箱を設置するとともに半田市赤十字奉仕団による街頭募金の実施、さらには5月1日から各自治区を通じた全戸への募金の協力依頼を行っているところでございます。そのうち担当しております生活援護課の窓口へ直接義援金をお寄せいただいた方の義援金が4月26日時点で100万円を超しましたので一時も早く被災地にお届けするという目的と合わせ被災地への今後の半田市として、あるいは市民としての支援の方法などどうすることができるかも含め調査をするため、去る4月29日に最も被害が甚大でありました益城町に行ってまいりました。その状況について、この後、防災監から報告をさせますが、訪問をいたしましたのは私と防災監 斉藤、地域福祉課長 竹部、これは避難所の関係を含めて、そして防災担当職員 深川の4名で行ってまいりましたのでご報告をさせて

いただきます。

斉藤清勝防災監：資料および映像資料に基づき説明

藤田千晴福祉部長：災害義援金募集状況について、資料に基づき説明

質疑なし

2 平成 27 年度事業変更報告（3 月分）について

滝本均総務部長：資料に基づき説明

榊原康仁建設部長：資料に基づき説明

小坂和正教育部長：資料に基づき説明

新美保博議員：建設部の当初予算と変更予算の事業費が同額だがなぜか。

榊原康仁建設部長：雁宿公園再整備事業で当初発注している工事があり、億単位の工事です。その中の工事の一つで 1,000 万円の寄附をいただいたので、この事業の中であずまや整備工事を追加することになりました。しかし景観で意匠を施した方が良いという部分と地盤調査により地盤対策として 470 万円必要となりました。寄附の 1,000 万円では対応できなかったため、雁宿公園整備事業全体の中の請負差金 500 万円を使って変更いたしました。

滝本均総務部長：総務課の報告については、いずれも当初予算になかった内容です。利用者等からの要望や利用者等の行動を確認した上で、安全対策と利便性のために実施したものです。財源については、報告書の中段にあります増額の場合、「流用」としております。これは一般会計の負担金としてありました新庁舎整備事業の耐震性貯水槽設置工事に不用額が生じたため流用し事業実施いたしました。

榊原康仁建設部長：先ほど説明不足で申し訳ありません。要は約 470 万円と 449 万 1 千円の数字の違いは、寄附金は 1,000 万円ですが、当初契約が 972 万円ということで変更契約が 1,449 万円のためこの差額が 477 万円ということであり、資料がわかりにくく申し訳ありません。この雁宿公園再整備事業の全体の事業費は 2 億 6,260 万 7 千円です。その中にいくつかの工事があり、その一つにあずまや整備工事があります。それは寄附金 1,000 万円、当初契約 972 万円です。その工事について 1,449 万 1 千円となったということです。この事業費は全体の額を表している数字でありますのでその中にあずまや整備工事があり、その部分だけとらえますと変更になったということです。

榊原純夫市長：申し訳ありません。新美議員のご指摘のとおりあずまや整備事業がいくらかからいくらかになったという表現に今後はさせていただきます。確かに今言ったのは杓子定規な資料の作成でございまして、わかりにくい資料となっておりますので次回から改めさせていただきます。

藤本哲史副市長：専決処分のような金額のことではなく市民生活に影響のある内容で流用等で対応したものは報告してほしいということでございましたので、できるだけそれに沿って報告を今後もしてまいります。例えばあずまやのようなものは材質が変わっただけの話であえてここでご報告をする内容でもないかと思いましたので、もう一度議長と相談してこの辺り整理させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

石川英之議員：総務課の報告で駐車場乗入設置工事はあの部分だけで 47 万円で

すか。

滝本均総務部長：植栽柵の一部を切り取って通路にするだけでその金額でございました。